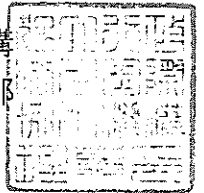


JICA (ER) 第 11 - 11002 号

平成 21 年 11 月 11 日

環境社会配慮審査会  
委員長 村山 武彦 殿

独立行政法人 国際協力機構  
理 事 佐渡島 志郎



環境社会配慮審査会への諮問について

JICA 環境社会配慮ガイドライン 2.4 の規定に基づき下記事項につき諮問いたします。

記

1. 件名

諮問第 6 号

「ウガンダ共和国 水力開発マスタープラン策定支援プロジェクト」

2. 諮問事項

「ウガンダ共和国 水力開発マスタープラン策定支援プロジェクト」におけるスコーピング案

以 上

平成 22 年 2 月 23 日

独立行政法人 国際協力機構  
理事 新井 泉 殿

環境社会配慮審査会  
委員長 村山 武彦

諮問第 6 号に対する答申について

JICA 環境社会配慮ガイドライン 2.4 の規定に基づき、諮問第 6 号「ウガンダ国水力開発マスタープラン策定支援プロジェクト」における環境社会配慮調査のスコーピング案について、別紙のとおり答申いたします。

答申内容を協力事業に反映するよう、お取り計らいください。

以上

ウガンダ国  
水力開発マスタープラン策定支援プロジェクト  
スコーピング案 答申

電源開発の比較検討

1. ステージ 1 で水力発電の優位性検証に際しては、水力発電の社会的受容性が低いことが原因で工期が予定を越えることが多く、結果として長期電源開発に影響を与える可能性があり、過小評価しないよう留意するべきである。
2. IUCN や多くの NGOs は、大型ダム・プロジェクトに対して批判的であり、自然エネルギーへの期待が高まる中、あえて大型ダム・プロジェクトに取り組むには、批判リスクへの対応、影響の最小化、ベネフィットの最大化について十分検討すべきである。
3. ステージ 1 の開発電源の検討において、前提とする供給電力量及び開発期限に応じて、7 つの電源種類に関する総合的評価・比較評価が行なわれる。その際、コスト面等の項目において評価基準や評価結果が変わる可能性に留意するべきである。また、各々の電源種の比較検討において、国土内の開発適地の多寡あるいは可能性に関しては評価対象に含めるべきである。

SEAの位置付けとスケジュール

4. スケジュールの大部分が最終的な候補地における検討に費やされているため、ステージ 2 までの検討が形式的になる恐れがある。最終候補地の選定までに至る検討を可能な限り充実させるべきである。

評価項目

5. 既設の水力開発について生じている問題点を整理し、開発調査結果が適切なものとなるよう努めることが望ましい。
6. ステージ 2 及び 3 の影響評価項目に関しては、WCD (World Commission on Dams) 報告 (ガイドライン) を取り入れ、具体的には、経済的リスク評価、環境流量の評価、国際河川手続きなどについて検討することが望ましい。
7. ステージ 2 の水力開発 7 地点の比較検討において、電力需要地との距離が離れて送電距離が長くなると、送電ロスが大きくなる。こうした送電距離や送電網との連結可能性は評価項目の対象とすることが望ましい。
8. ステージ 2 の水力発電を前提とした有望 3 地点の検討において、流れ込み式またはダム式等の方式に応じて地域環境への影響は大きく異なると考えられる。したがって有望 3 地点の検討に際しては、地点ごとに水運用方式も組み入れて検討することが望ましい。また、ダム式の採用を検討する際、ダムの使用可能期間につ

いて、上流からの土砂堆積量に関するデータを把握した上で評価するべきである。

9. ステージ 2 の有望 3 地点の検討において、温暖化影響（温室効果ガス排出量）を評価項目に入れることが望ましい。
10. ステージ 2 は最終候補地を選定するための重要な段階であるため、文献収集のみならず現地踏査や関係者への聞き取りなど、現地固有の情報を可能なかぎり収集すべきである。

#### 代替案の比較検討

11. 個々の項目に関する評価の方法や重みの付け方によって結果が異なる可能性があるため、項目別の評価や総合評価の方法を複数検討し感度分析を行うなど、異なる条件のもとでの結果の強靭性を可能な限り検討するべきである。

#### ステークホルダー協議

12. 第 1 回の協議で提示された内容が調査の枠組みのみであり、第 2 回の協議で最終的な候補地まで示される予定であるため、内容がかなり多岐に亘ることが考えられる。そのため、特にステージ 2 における Long List と Short List の検討については相当程度の時間を取って説明したうえで、関係者の間で十分な協議が行われるよう努めるべきである。
13. ステークホルダー協議で健康へのリスクをクライテリアの一つとするよう求められているが、どのような内容の健康リスクがなぜ生じる可能性があるのかを明確にした上で、EIA の中で重点的に取り上げること検討するべきである。

#### 生態系・自然環境

14. ヴィクトリア湖からアルバート湖一帯は、アフリカの水系別生態系分析において、希少種の多い重要な生態系地域とされている。このことから、アフリカ全体の生態系重要地域から見た、対象地域の環境影響評価も行うべきである。
15. ステージ 3 の影響評価ではマーチソンフォールズ国立公園におけるゾーニングと管理方針について再確認することが望ましい。

以上